

神戸・画人

〈3〉

中西 勝

〈洋画家〉



なかにし まさる。
大阪に生まれる。1956年 現在日本美術展招待出品
1957年 日本国際美術展招待出品 1967-1970年
メキシコ・トルコ・モロッコ・ギリシャ・ダアマラ等の奥地を
探訪及びアーティスト・全ヨーロッパを旅す。1972年 第15回
世界賞受賞、紀念大展賞受賞 1973年 モロッコ、
中近東外遊現、紀念理事、神戸市文化賞、兵庫県文化賞受賞
神戸学院大学教授 東舞区在住

私の繪

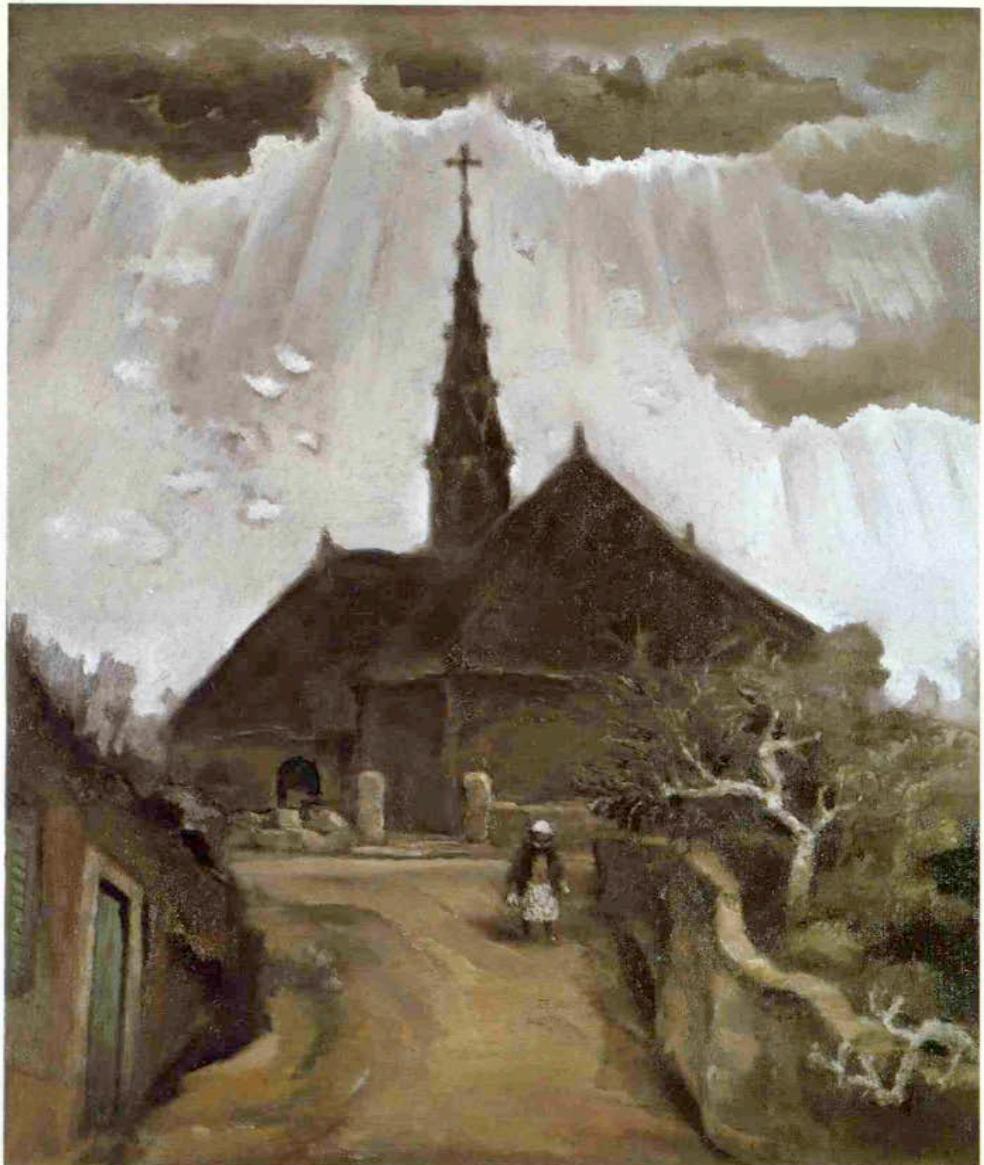
私は、かつて車で、はるかな世界の旅をした。

花を見つけると花を摘んだ。四年半も摘み続けた。異國の旅に伴う「孤独」性が、花の美しさと大地の大きさに魅きつけられ引きづられて、その行為を続けさせたのである。

花を摘むことで、その土地その部落の在り方、ひいては創生の根元に触れたような満足感にひたっていたと思う。

メキシコやモロッコの、とりわけ僻遠の地に感動を覚えたのも、土くれたインディオたちの生活が同じ触発を私に与えたからである。

「人はただ生きているだけで充分」という単純な発見、そこに深い生命の尊厳をみたと思つてゐるのである。この原点に立つて私は人が棲まうそれぞれの世界と対話を続けて、たしかな創造の力を自ら育んでゆきたいと希つてゐる。



村の教会(ブルターニ)
30号F

神戸の風色

KOBE•FUSHOKU

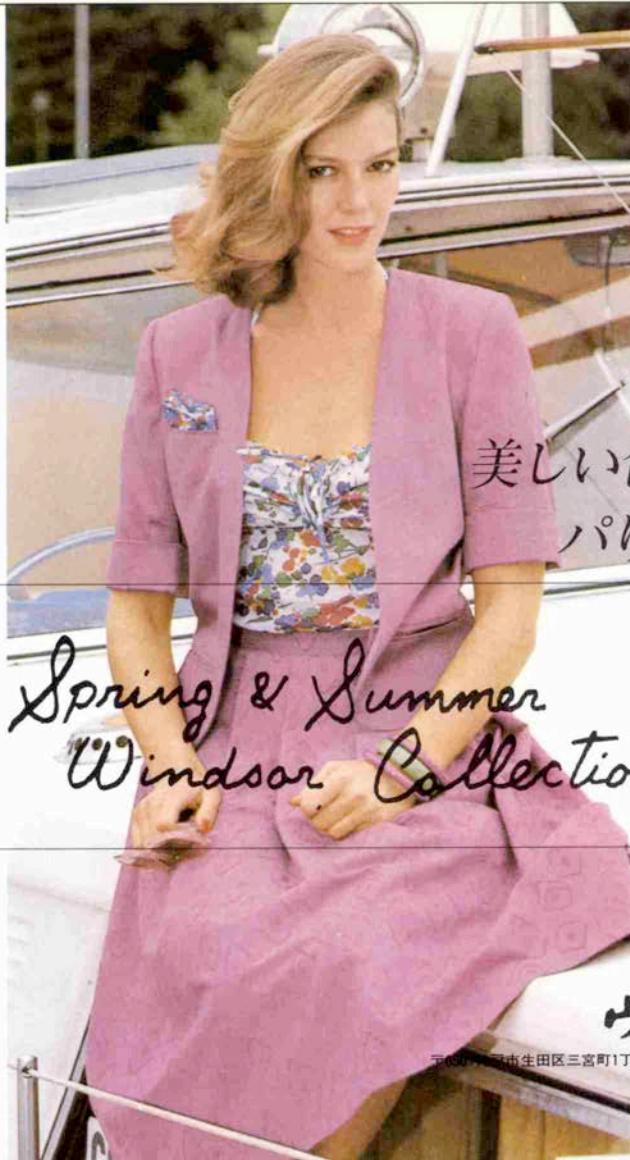
堀内初太郎 NO.3



諸願成就

生田神社青牛公 納

進学 漢文その他類事 絵馬は
授業所にありまし 旗昇り回



美しい色づかいに
パリが香る…

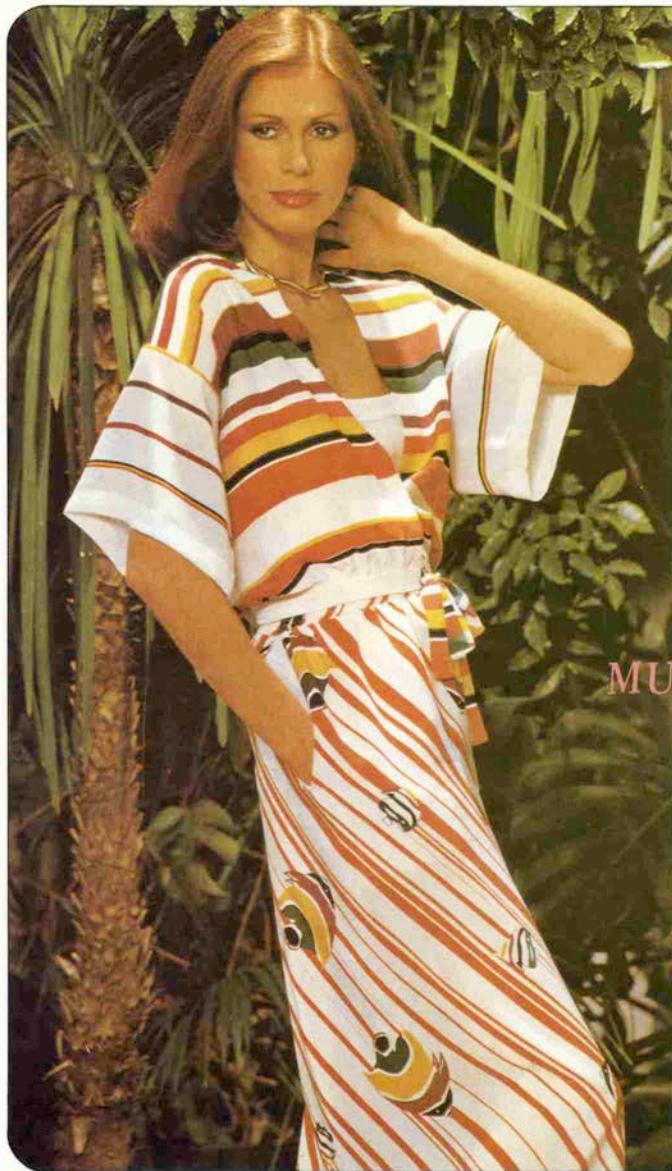
'80 Spring & Summer
Windsor Collection



オートクチュール・ブティック

ウインザー

〒660-0001 神戸市生田区三宮町1丁目さんプラザ2F TEL (078) 331-7952



Spring
has come

春は生命の芽ぶく時。
長い時の蓄積から
目覚めた美しさは、
言葉では
言いつくせない…
そんな美しさを、
際だたせる

MURATA COLLECTION

真珠・貴金属・毛皮・輸入婦人服

ムラタ

さんちかレディスタウン
(神戸市生田区三宮町1丁目1)
☎ (078) 391-3886

本社

(神戸市生田区元町通6丁目35の2 明邦ビル)
☎ (078) 341-8041

伝統の心を縫う
手づくりの
風 格



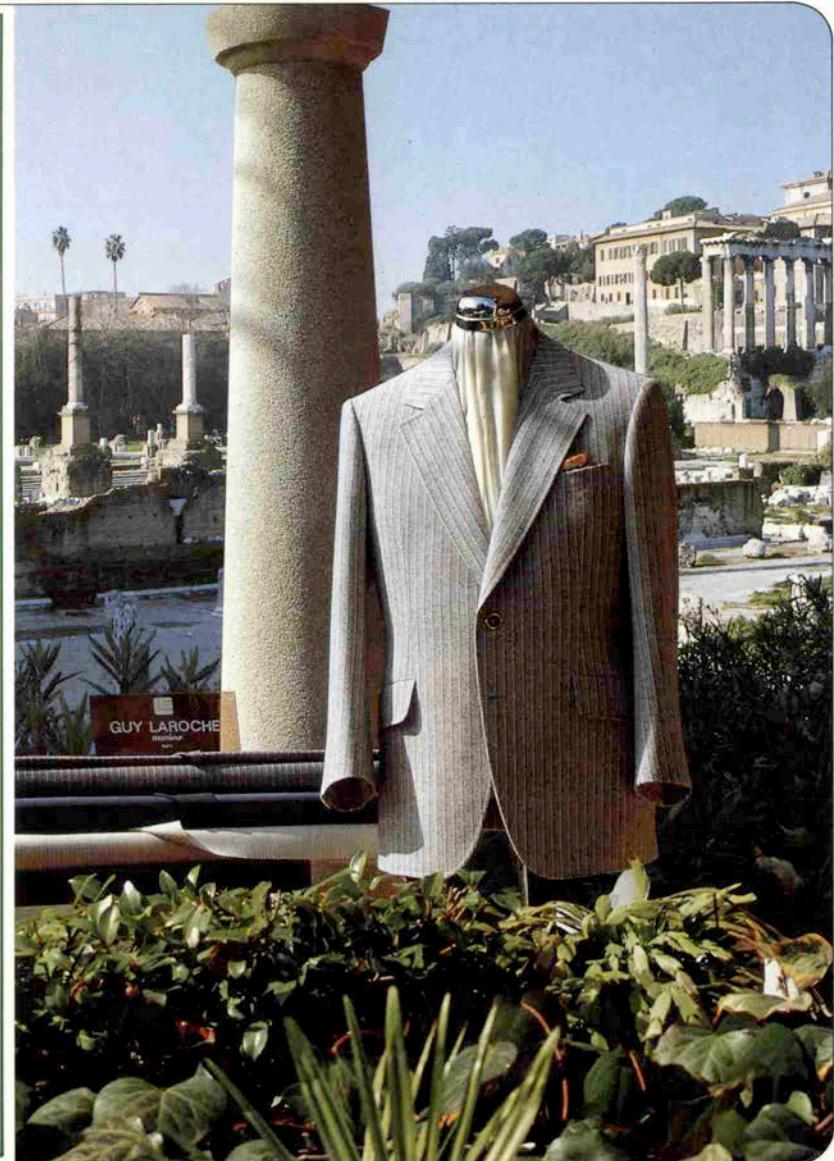
洋服・靴

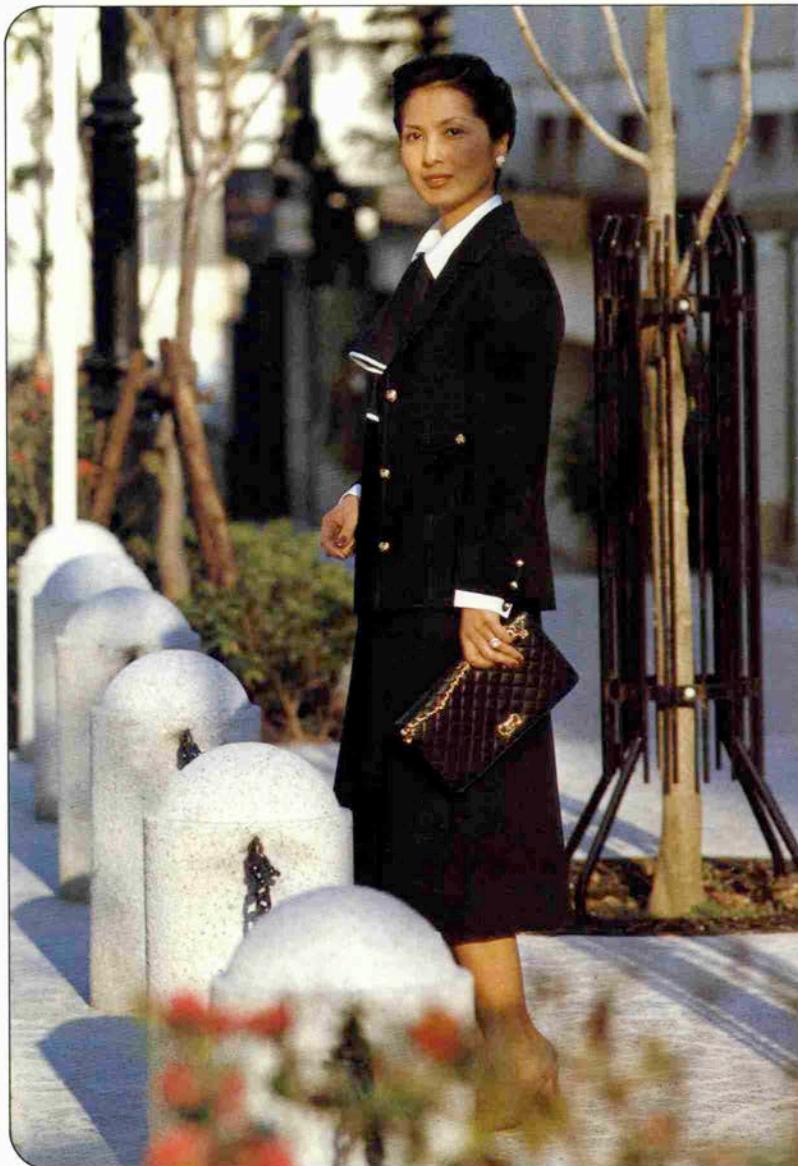
渡 道

神戸市葺合区磯上通8-1-33

☎ (078) 251-8501(代)

東京・大阪・神戸・姫路





良いものとの 出逢い

入園式、入学式に
辰見 陽子さん(西宮市在住)

ワードローブは紺、ベージュ、茶のベーシックカラーが中心で、それを見事個性的に装う辰見さんは、二女に囲まれ、建築家のご主人と休日はもっぱらテニスです。

シャネルスーツ(D.Pallas) ¥252,000

*ladies
watanabe*

三宮町1丁目ニューセンタービル入口
TEL (078) 331-1650
10:30AM~7:00PM 水曜定休



G それは GREAT
G それは GENTLE
G それは GOOD
G それは OKADA TAILOR

そして

アダム G

ADAM G

それは…現代を着る貴男のためのファッショングです。

服飾技術研究所 岡田 嶽

神戸市東灘区御幸通6-1-15 みゆきビル607 ☎221-9314

“GRACE”号の前に立つ
南 泰吉氏
〈株式会社南ビル社長〉

〈モナコ王室専用ハーバーにて〉

THE KOBECCO 19th

・月刊神戸っ子19周年記念パーティへのお誘い

第9回ブルーメール賞受賞式

VIVA世界の 酒祭り'80



サンバデポートピア'81 4月10日(木)

午後5:30受付/6:00開演～9:00終了

於 / サンボーホール2F ★¥5,000 (チケット/のんで・たべて・踊って)



真帆しぶき

■サンバ&ファッショントピア'81
出演 / サントノーレハウスバンド

ポートピア'81がやつてくる
新しい街に、新しい出会いと発見を求めて
ビバ神戸！ビバポートピア'81！
春らんまんのこの神戸っ子パーティへいざ。

プログラム

■第9回月刊神戸っ子

ブルーメール賞受賞式

■昭和55年度神戸酒徒番附表彰式

ショータイム

■VIVA世界の酒祭り'80

出演

■サンバデポートピア'81

●お問合せ / 主催 月刊神戸っ子 / 神戸市生田区東町113ノ1大神ビル7F ☎078(331)2246

ある朝、私は虹になる。

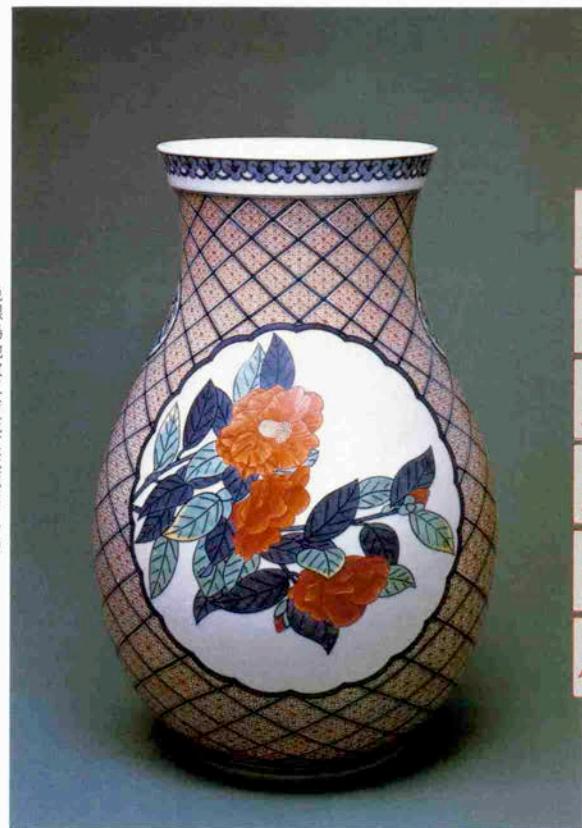


トータルコーディネートファッショ

- リザ・サロン
- アクセサリー内外雑貨
- ルイ・ミッシェル
- COLLEGE SHOP
- CABIN
- パリ・ナウファッショ
- フランス・アンドルヴィ
- パリ・ナウファッショ
- ジョージュ・レッシュ
- 東京銀座・婦人靴
- ダイアナ
- 舶来婦人靴専門店
- Pia
- ヤングファッショ&ブライダルサロン
- ルベール
- ヤングアダルトファッショ
- ランブ
- ファッショナバグ・アクセサリー
- 美呂
- 原宿・婦人服
- CAN
- 銀座・婦人服
- ゲルラン
- 婦人服飾
- 東京屋
- 新宿・レディスファッショ
- 高野
- おしゃれな靴の店
- BONフカヤ
- コンテンポラリーファッショ
- ザ・コレクション
- 宝飾・ビジュテリー
- ココ山岡
- 東京ギンザ・レディスファッショ
- 三愛

**FASHION
PARK**

神戸・三宮
さんプラザ・センタープラザ
3F



色銀島地紋一方花文花瓶(高さ47cm)

美の至高体験



色錦島草花束縵文花瓶(高さ34.2cm)

3月の

● 画廊催し案内

〈そごう〉が選んだ

● 2月29日(金)～3月5日(水)

● 第2回 丹波陶友会展

● 3月7日(金)～3月12日(水)

● 3月14日(金)～3月19日(水)

■ ヨーロッパの詩情
谷内六郎木版画展

■ 郷愁をそぞう叙情の世界
山崎朔三油絵新作展

■ 十三代今右衛門作陶展

☆私の意見

今こそ将来への 蓄積をする時

田 島 博
△神戸市外国语大学学長▽



最近は低成長の時代です。省エネであるとか、減量経営であるとか、マイナスの方向が非常にクローズアップされています。もちろん私の身辺にも、実際にその影響がおこっています。ところが、だからといって、何もないでいい時期だと考えてしまったのはいけないと思います。決して楽観的な見方ではなく、この低成長時代も一直線に続くものではなく、必ず波というものがある、いずれ将来、何らかの形でもっといい時期が来るであろうという期待もできると思うのです。だから今のこの時期に、私たちは、その低成長ムードに呪縛されてしまつて、何もしないでじっとしていってはいけないと思うのです。つまり、将来に備えて今をうまく利用するかしないかが問題となってくるわけで、また活発に動くであろう発展の時期に力が不足していないようにしなければならないのだと思うのです。

例えていうなら蝶の場合です。蝶は成長過程において幼虫からサナギ、そして蝶へと変化していきます。幼虫がどんどん大きくなっていくのが高度成長期で、サナギの時代は蝶になるのをじっと待っている時です。ところが、そのサナギの期間に果して何もせずにいるのかというと、そうではないと思うのです。あの華麗な蝶となって生まれてくるためには、何かたいへんなことがサナギの時代に内部で起こっているはずです。変身への準備が凄じい勢いでおこなわれているのでしょうか。

私たちも同じことで、低成長の環境に縛られて、外からみれば何も動いていないようにも、内でも、将来の充実のための必死の営みがおこなわれているべき時期です。低成長だ、省エネだといわれて、活動が停止してしまるのは恐ろしいことで、そういうムードに流されないように奮起する必要があると思います。今は何もしないのだという受けとめ方をしてはいけないのであってこれをプラスに生かすことを考えるべきですね。次の成長期の強いあり方のために、エネルギーを内へ向けて蓄積しないといかないといけない時だと思います。

(談)

★月刊神戸っ子19周年記念文化賞／第9回受賞者発表

BM ブルー・メール賞

副賞 各拾万円
海の女神プロンズ
新谷 索紀制作

郷土を愛する人々の雑誌、月刊「神戸っ子」はこの三月号で十九周年を迎えました。これもひとえに皆さまの暖かいご支援の賜と感謝いたしております。

さて、月刊「神戸っ子」では、神戸の文化を進めるため、ここに第九回「ブルー・メール賞」(青い海)を設定し、各部門別に選考座談会を行つたうえ、左記の五人の方々に賞(彫刻家新谷索紀氏による海の女神のブロンズ像)をお贈りすることになりました。また、副賞には地元企業のご協力により、各部門の受賞者に拾万円が授与できることになり、心からお礼申し上げます。

地域社会の中から世界に通じる文化を育みたく、力いっぱい努力してまいりたいと思います。今後ともご支援のほど、よろしくお願ひいたします。

△授賞式は4月10日(木)サンボーホール／月刊神戸っ子19周年記念パーティで行います▽

□ 文学部門



選考員 小林武雄・・杉山平一・安水稔和

梅村光 明

△詩人▽

△安水稔和▽

日常から立ちあらわれるコトバへのこだわり。こだわりつづけて探しあてた数々のコトバの群押しのけてきこえてくるのは、しなやかな青春の歌口。含蓄気鋭の詩人梅村光明さんにたいする私たちの期待は大きい。



□ 音楽部門

山内 鈴子

△ピアニスト▽

選考員 吉村一夫・柴田仁・小石忠男

山内鈴子さんは才氣煥發、非常な積極性をもったピアニストだ。受賞の理由となった神戸での独奏会を含めて、この数年の成長は著しく、輝かしい音の感覚など生まれの資質がいま結実したといえる。受賞は当然である。

△小石忠男▽

□ 美術部門

選考

赤根和生・乾由明・増田洋・草野拓郎

えのき
榎

ただし
忠

△アーチスト▽

△増田洋▽

榎忠は発想の幅の広さと、その発想が現実に結びつく時間の早さを持っている。彼は頭の働きと手の働きが一致するという美術家に一番必要な資質を持つ人で、現在その資質の一致をみない美術家が多い中で、将来もかなりの仕事ができると確信できる人である。

△増田洋▽

□ 舞台芸術部門

選考

佐野漣筈・岡田美代・小泉康夫



うん
海野光子

□ ファッション部門

選考

福富芳美・森木泰好・藤本ハルミ・小泉美喜子

△カネディアン・アカデミイ
△日本語日本文化部々長▽

青い眼の役者たちが主演した歌舞伎十八番の「勧進帳」は二千三百名の観客を文句なしに魅了した。もうこれは日本の驚異ともいえる存在である。ここまで育てた海野先生と厳しい練習によく応えた年若い外人役者に、絶賛の拍手を贈る。

△岡田美代▽



みつ
市野木江充子

△ニットーデザイナー▽

神戸では育ちにくいオートクチュールニットの分野で、じっくり自分の勉強をして創造的な仕事をしてきた市野木さんの姿勢は立派である。また、春秋のショウで、たえず「高い次元のデザイン」を発表してきたことも評価したい。

△福富芳美▽

★ブルーメール賞協賛会社

株式会社 淡路屋 神栄石野証券株式会社
財団法人 井植記念会 角南商事株式会社
UCC上島珈琲本社 株式会社 そごう神戸店
ウシオ工業株式会社 株式会社 大丸神戸店
オールスタイル株式会社 株式会社 太陽神戸銀行
カネボウベルエイシー(株) 田崎真珠株式会社
カワノ株式会社 バンドー化学株式会社
株式会社 神戸製鋼所 株式会社 ワールド

△50音順▽

一生勉強の
愛陶の世界

ANAN
あんちっく
シリーズ
4



美術館にいた時、運よく大好きな志野の「卯花^{クハ}」の名碗を手にさせてもらい、国宝の重みと出来のすばしさに今もその時の感動を忘れ得ませんが、いつになんでも思いがけない焼きものに出くわしたり、未知の美を見い出したりして、そのつど驚きを新たにする機会の多いことも事実です。その意味で愛陶の世界も一生勉強、ということに尽きますが、それにしても昔と違い、多くの美術館や画廊で様々な陶磁に接したり、自由に話しかけることのできる現代人の日常生活はまことに恵まれたものと思います。

あんちっく AN AN
庵庵

神戸市生田区三宮町2丁目1番5号
センターブラザ西館3F306号
中尾 忠義 ☎392-3471 (元白鶴美術館主事)

●3月のゲスト

青木 重雄 さん

刀劍 古美術



高村光雲原型 聖觀音立像 高さ40cm ￥65,000

毎月20日 無料鑑定
研磨、白サヤ、その他工作
お支払いに便利なローンをご利用下さい。

刀 剣
古 美 術
元町美術

神戸市生田区元町通6丁目25番地
三越百貨店東へ150m 商店街山側

TEL 078-351-0081

神戸つ子19年



富士 正晴

普通20年を祝うみたいな気がするが、19年を一区切りとして祝うとは、一種しゃれた神戸らしさがあるよう気がしないでもない。

一九八〇年から一九八〇年代というごとく、20年からは「神戸つ子」20年代に入るということであるかも知れない。

この何々年代ということで、わたしは年末、年始にちよつと悩んだ。二十世紀という場合、一九〇〇年から二十世紀とはいまい。一九〇〇年は十九世紀の完了の年で、一九〇一年が二十世紀のはじまりであるのであろう。ところが、一九八〇年代というのは一九八一年からではなく、一九八〇年からはじまるらしい。これはどうなるのか。第一世紀というのは一年からはじまるのであって〇年という年からはじまるのではないか。とすれば、どこかで一年つじつまの合わぬことが出て来るのではないか。

こんな変てこな思案は、一昨年死んでしまった花森安治が生きておれば、ちと相談したいところであるなあと思った。生きている淀川長治がそばにもし居れば、この人とも相談してみたい。

神戸は坂道ばかりで風通しがよくて、気質的にアッサリしているなあと思うが、どうしてどうして、「神戸つ子」のような雑誌がこれだけつづいているとはシブトイなあとも思う。そのシブトイにしゃれたところがあることも感じる。そういえば、花森安治もシブトイ「暮しの手帖」をやっていたが、淀川長治も一見おだやかな紳士

風だがその芯のあたりは中々シブトイだ。そういうとこがほの見える。

小泉兄妹その他の編集スタッフは神戸のどのあたりに育ち、どんな学校を出した連中かふつと気になるが、全然わたしにはその知識がない。知りたく思うが、今はとつさに知ることが出来ない。

淀川長治・花森安治はわたしの三中の先輩で、わたしが入った年に一年から五年まではようやく揃った新設校で、ひどく自由主義的な雰囲気で、初代校長の近藤英也は生徒たちを紳士扱いするような人だった。だから相当のびのびと暮らせたような気がするが、花森は知つていたが淀川長治という人物は知らなかつた。しかし、淀川長治の尽力で、わたしら生徒は時々松竹座へ全校一緒に行つてダグラス・フェアバンクスの冒険映画を見ることが出来た。これは感謝に値することであつた。

そういう雰囲気の学校から淀川や花森のようにシブトイ人物が出て来たことは何とも面白い。後輩のわたしにしてがVIKINGという同人雑誌を神戸から発足させ、三十数年つづけているのだからこれもシブトイのかも知れない。

こういうシブトイさは案外、神戸のキビキビした明るさが土台になつて出てくるものかも知れない。

とにかく「神戸つ子」十九年はめでたい。もう大体が安泰とみていいのだろうが、余りノンキにならずにつづけて行つてもらいたい。それは出来るだらうと思い、まあ、ここに祝辞をのべる。おめでとう。

出会いと人間模様



望月 美佐
▲書道家

「神戸つ子」はこのたび、はや二十年を迎えると
いう。

心からのお祝いを申しあげ、今後ますますの発展をお
祈りいたします。

一口に二十年といつても、この二十年の時代の流れは
実に多様だったと思います。今でこそ、「ミニコミ」と
いう確立した分野がありますが、昭和三十六年の創刊当
時はまだ未開の分野だったと思われます。

今きっと、その頃の心境が、小泉康夫編集長、小泉美
喜子さんの胸の中をせつせつと脈打つてることでしょ
う。夢と希望に熱い血を燃やしながら、必死で頑張った
二十年前日々のことが……。

私の一つの道も、偶然その時期にスタートしたばかり
でした。日展に初出品初入選ののち、三回目の入選を果
たし、書の道一筋に生きようと、新しく社会への第一歩
を情熱をもって踏み始めたところだったからです。——
やがて月日は流れ、開放的で国際性に富んだ明るい神
戸の風土に育くまれて、しだいに「神戸つ子」は大きく
なり、そして私は、日展十回入選を契機に封建的な書の
世界の中から飛び出し、一人歩きを決心することとなり
ました。ちょうどその頃、「神戸つ子」との出会いがあ
つたと思います。

以来、題字を書かせていただいたら、様々なおつきあ
いがありました。『神戸つ子』を通じて、あらゆる分
野の人々との出会い、この人間関係が、私の今を支えて
くれる何よりの財産です。

創作の道はまた、出会いの歴史であります。書の世界からとびだした〇の私が学んだ対象は、人間です。人々との出会いが私の何よりの栄養となり、創作の糧となりました。

私は人間が好きです。人間の崇高さも、人間臭さも、人それぞれにつきせぬ泉をもつていて、さまざまに魅力のある「人間模様」(以前、「神戸つ子」誌上で私が書かせてもらった題字ですが……)を織りあげています。

「生きている、すべての人とふれあって、心あたため生きたいものを」——赤木健介のこの歌を私は好んで作品に書き続けていますが、今生きているというその幸せは、人間の交流の上にこそなりたっているのではないかでしょうか。

「神戸つ子」は二十年の雑誌づくりを通して、單に雑誌発行のみにとどまらず、すばらしい才能や個性や夢をもった人々——神戸つ子——を発掘し、育て、その輪を拡げてこられた。そのことに、その感度とバイタリティに、私はあらためて感服し「神戸つ子」の果たした役割の大きさを認識する思いです。

今、全国を代表するミニコミ誌となつた「神戸つ子」ですが、これからも神戸を愛する人々のふれあいの場として、また、そのふれあいから実りある何かを生み出す原動力として、力強い歩みを続けてくれることと、私は確信しています。

自由な発想と品格



朝比奈 隆
△指揮者△

「神戸つ子」の表紙は素晴らしい。小磯良平画伯の描く表紙は品格が漂い、それが「神戸つ子」という雑誌の中にのり移っている。何と小磯画伯の表紙絵が十八年も続いている。そうだが、一貫した安定性がある。それはマンネリズムとはいわず、個性というか独自の画風というものだろう。神戸らしい洗練されたセンス、ハイカラな感じ、それでいながら気障っぽさがない……。どの号も画題は異なるのに、いつも同じ絵ではないか、と思つてしまふくらい画風が確立されている。「神戸つ子」の表紙に相応しい絵で、これは「神戸つ子」の宝物だと思う。

小磯画伯の絵を音楽にたとえるなら、クラシック音楽の中の一番オーソドックスな正統派の音楽で、ベートーヴェンかブームスか……。小磯画伯の絵にはクラシックな感じの中にロマンティックなところが多分にあるから、やはりブームスだろう。最も正統的な絵と呼べるのではないだろうか。個人的なことになるが私は正統好みなのである。音楽でも何でもそうだが、正統的なものを演るのが一番難しいようと思える。変わったことをすれば個性だけで何とか格好がつくけれど「正統」というのは、無個性の中で個性をつくつていかなければいけないから技術的にも精神的にも非常に困難を要するものだ。画伯は自然にその道を進んでおられ、そういう意味で私は非常に尊敬している。画伯の絵は神戸のひとつ誇りというか、シンボルだといつても過言ではないだろう。

もう一人の神戸の象徴みたいな人、詩人の竹中郁氏とは古くから的小磯画伯の親友で名コンビだが、竹中氏を

みてると昔の(十九世紀以前)のヨーロッパの理想の男の生活をしておられるような気がしてならない。あらゆるものに关心を持つて、詩に限らず文章も書くし絵も描くという。ああいう人を本当の意味でのディレクタント、「偉大な素人」という感じがする。専門の詩のことについてはあまりおっしゃらないが、小説のこと、絵のことそしてたべものことにはかなりウルサイ。まさしくヨーロッパ、特に英仏の貴族の理想の姿、教養が高く、何でも出来て、灑々として……。竹中氏は自由だから貴族的なんだろう。小磯良平、竹中郁氏をみると本当に「神戸の人」という感じがしてならない。

「神戸の人」には自由な気質があるようと思える。この間、惜しくも他界された扇月堂の吉川進氏と晩年親しくおつき合いついた。お菓子の老舗でありながら、そこにとどまらず、いつも何か考えておられ、お菓子のアイデアを会うたびに熱心に語りかけ聞き役の私に話して確認されていたのだろうか。絶えず発想があつてそれがとても自由にいきいきとしている。私が考えるのに神戸には城がなく武士の伝統もないことが自由な発想の起ころ一因となつてゐるのではないか。だから外部の人に対しても開放的だから外国人も住み良いのだろう。

「神戸つ子」もはやいものでもう十九年。一口で言うなら「よく発展してきた」という印象である。神戸といふ街との綿密なつながりと育くまれた自由な気質で、新しい時代も頑張つて欲しい。八〇年代の飛躍を期待する。